

エコ・プロ

生コンスラッジを改質 泥土処理で有価販売

無機系固化材や土壌改良材の開発・販売を行うエコ・プロジェクト（新潟県新発田市、高橋正男代表取締役）は、生コンスラッジに同社が開発した固化材

「泥ん固AC-096」を混ぜるだけで、無害な泥土に処理する技術を開発した。攪拌したスラッジは防草材や土壌改良材として利用できる。生コンスラッジ

を有価物として有効利用できるほか、産廃処理費用の削減も可能で、県内の生コン協同組合が利用を検討している。泥ん固AC-096は硫酸鉄塩やシリカ化



合物など無機化合物で構成される粉末で、色

防草材として高い効果を発揮した

相は灰茶色である。pH値は3・6前後と弱酸性を示す。これをアルカリ度の高い生コンスラッジと攪拌すると酸化し、六価クロムが安全な三価クロムへ還元できるため、有害な生コンスラッジを無害化できるとい

処理方法は生コンスラッジに泥ん固AC-096をバックホウなどの重機で混合し、その後7～14日間、1～2回程攪拌し、養生するだけ。この攪拌で酸化を促進させる。また、材齢4日までは処理土を屋内またはブルーシートなどで覆い、雨との接触を防ぐ。

処理土は土壌改良材や防草材として利用できる。防草材としての利用は国道7号線新発田拡幅工事（国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所発注）で側道と中央分離帯の一部使用された。この処理土は、北越生コンク

リート協同組合（新潟県村上市、松山晴久理事長）が供給した。使用量は約200m³。同協組はエコ・プロジェクトの同技術に注目し、組合内の敷地で防草効果の試験を行った。処理土は「HNK-D」と登録し、協組での販売も検討している。土壌改良材としての利用は処理土を培土と攪拌することで、防草材と逆の効果を得られる。小松菜の生育実験で、所定の容量で添加したところ生育を促すことが分かった。同社ではほかにセメント水和物などに係る化学素材の研究を目的に、今月から産学官の連携をスタートさせる予定。さらに、スラッジの有効利用を目的に生コン会社との共同研究・販売も視野に入れている。

泥ん固AC-096に関する問い合わせは同社HPもしくは電話番号0254・20・8080まで。